

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和3年度 高岡工芸高等学校アクションプラン					- 1 -	
重点項目	学習活動					
重点課題	基礎学力の定着と授業改善の推進					
現 状	・これまでの取り組みを通して、基礎学力の全体の底上げという点では一定の成果がでてきている。今後はそれに加え、生徒個々の目標や能力に合った基礎学力を身につけさせていくことが課題である。 ・家庭学習が不足している生徒が多くみられる。授業の内容を理解し定着させたり、目指す資格・検定の取得を実現させるために、学習意欲をもって日常的に家庭学習に取り組む習慣を育成することが必要である。					
	・「主体的・対話的で深い学び」の実践を通して、生徒の能動的な学びを実現し、生涯にわたり自己の目標達成に向け努力する姿勢とその基盤となる学力を育成することが求められている。各教科・科目の担当者の共通理解のもと、そのような学びを実現するための指導方法の工夫・改善を進めていく必要がある。					
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析		公開授業の実施と授業見学・互見授業			
	・1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。 ・基礎学力(基礎力診断テストで判定)が向上した生徒の割合を60%以上にする。		・担当授業を年1回以上(1, 2学期間)公開する。 ・他の教員の授業見学を年1回以上行う。			
方 策	・基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定点点観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に着ける。 ・朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。 ・教育クラウドを活用した学習支援の検討。		・互見授業を実施し、自身の授業改善に役立てる。 ・互見授業の実施率向上のために各学期に互見授業週間を設け意識向上を図る。 ・ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。			
達 成 度	・2学期の結果 (2年生)1学期より基礎学力が向上した生徒は、国数英で59.3%に達した。教科別では、数学が58.2%と向上したが、国語・英語はそれぞれ47.8%、42.9%と50%を下回った。		・授業公開 教諭54名で延べ81 回実施 1. 5回／人 (一昨年度0.77回／人) ・授業見学 教諭54名で延べ107 回実施。 1. 98回／人 (昨年度 1.57回)			
具体的な取組状況	・基礎学力診断テストを1年生の2, 3学期、2年生の全学期、3年生の1学期に実施した。その結果を職員間で共有し、生徒の実態に合った授業づくりをとおして基礎学力の向上を図った。 ・数学で特に基礎学力が不足していると思われる生徒に対して少人数による補習を行った。		・ICTの活用や生徒の能動的な学習活動を取り入れた授業公開が多く行われた。今年度から生徒一人一台のタブレットが配布されたこともあり、授業でのICTの活用方法等について、有意義な情報交換を行うことができた。 ・新型コロナウイルスへの対応から、一部でリモート授業を実施し、それを公開授業とした。新しい取組みに教科を超えた情報交換が積極的に行われた。			
評 価	B	・2年生は、1学期に比べ成績が向上した生徒が、国数英で59.3%と、目標の60%にほぼ達することができた。 ・国語と英語では、成績が向上した生徒が50%を下回った。	A	・生徒にタブレットが配布されたことで、ICTを活用した授業見学に対する意識が高まった。 ・今年度は、公開する授業が指定されていたため、見学しやすい雰囲気になり、見学者を増やすことができた。		
学校関係者の意見	・生徒間に学力差がある中で、全体の底上げに取り組むことは、大変なことだと思う。 ・6割近くの生徒の成績が向上したことは良い結果である。					
次年度へ向けての課題	・成績中、上位層の生徒への学力向上に向けた取り組みの強化と、基礎学力向上につながる具体的な目標づくりを行い、生徒の学習意欲を高める。 ・生徒1人1台のタブレットの活用や教育クラウドを利用した家庭学習のサポート環境の整備など、ICTの活用の推進を進める。 ・授業が見学しやすい環境づくりを工夫する。					

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 2 -				
重点項目	学校生活			
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成			
現 状	・SNSには、その普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供などを受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。一昨年度のネットパトロール報告件数は11件で、昨年度は3件であった。携帯電話使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。			
	・交通事故件数は、一昨年度は3件であったが、昨年度は8件発生した。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるかは分からないし、加害者になることも限らない。常に、命の大切さはもとより、モラル、マナーを高め、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。			
達成目標	ネットパトロールの報告件数		交通事故件数	
	・年間報告件数 3件以下		・発生件数(年間 3件)以下	
方 策	・集会毎にSNSに関する情報提供 ・「心」の教育、モラルとマナーの指導 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施 ・個別指導		・各集会毎に交通安全指導 ・自転車点検による安全意識の向上 ・事故発生時の状況や場所の教室掲示 ・校風安全委員による対策等検討会の実施 ・交通安全教室の実施(1年生) ・個別指導	
達 成 度	・報告件数 0件(1月26日現在)		・事故件数 6件(1月26日現在)	
具体的な 取組状況	・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業、終業式での注意喚起 ・「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施(2学年) ・ST時での情報提供 ・個別指導		・新入生、保護者への注意喚起(合格者説明会、オリエンテーション) ・始業、終業式での注意喚起 ・自転車カギかけ運動(5月) ・自転車点検による安全意識の向上(5月) ・交通安全教室の実施(1年生 7月) ・ST時での情報提供 ・校風安全委員会での事故の原因と対策検討、教室での呼びかけ ・個別指導	
評 価	A	・ネットパトロール報告件数は、0件であった。 ・情報提供として県から連絡を受けた件数は、1件であった。	C	・自転車対自転車1件、自転車対自動車4件、人対自動車1件の合計6件となり、昨年度よりも発生件数が減ったが、目標を達成できなかった。
学校関係者の意見	・昨今の状況で、SNSに係る事案が年間3件以下というのは、指導の成果が出ているのではないかと。 ・交通事故件数が目標値を上回っているが、生徒数からすれば微増であり、取組の成果は十二分であるように思う。			
次年度へ向けての課題	・SNSの利用や交通安全については、まず新入生に対してオリエンテーションでしっかりとした情報提供や注意喚起を行う。また、全体に年度当初、守るべき事や心がけることなどを明確に伝え、学期末に現状を知らせて、注意喚起する。そして、折を見て学年集会や個別指導など様々な対策を行っていく。 ・教師側からいろいろ注意しても、生徒達が自分事と捉えていないところがある。今年度は校風安全委員会で交通事故について話し合いを行ったが、次年度はそれぞれに自分事としてSNSや交通安全などについて考えさせるように、LHなどを活用して各クラスで話し合いの場を設定したい。			

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援		
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ		
現 状	・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学会議で名前を出されても、どのような生徒が把握していない状況がある。 ・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えているが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。		・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約127名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成28年度9人(116/125)、29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)、令和元年度3人(132/135)、令和2年度0人(111/111)であった。
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数		就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.8回以上)		新型コロナウイルス影響による求人縮小の影響を考え 4人未満
方 策	・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。 ・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。 ・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。		・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。
達 成 度	・進路指導室の延べ利用回数 ＜就職者＞ - 進路指導室 140回 1F選択教室 154回 ＜進学者＞ - 進路指導室 234回 - 合計 528回 - 達成度52.8%		・基礎学力診断テスト、クレペリン検査の実施。 ・外部講師および職員による面接指導。 ・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適正の把握および学年との情報の共有化。 ・企業への求人依頼。
具体的な取組状況	・2学年末に進路指導室の利用について、各クラスごとに進路指導室および選択教室にどのような資料があるか、また、その調べ方などのガイダンスを行った。 ・常日頃より生徒への声かけをして、進路について考えさせるようにしている。 ・2学期から生徒一人一人にタブレットが支給され、情報が検索しやすくなった。		・基礎学力診断テスト、クレペリン検査の実施。 ・外部講師および職員による面接指導。 ・求人票受付時の聞き取りに企業が求める人物・適正の把握および学年との情報の共有化。 ・企業への求人依頼。
評 価	D	・目標を下回った。 - 就職者の52.0% - 進学者の40.7% - の生徒が進路の選択にあたり、進路指導室の担当者と相談をしたり、情報の提供を受けたと回答し、昨年より数値は下降した。	D ・一次選考での不合格者数が8名となり、目標人数4人を大きく上回った。 ・コロナ禍において、人と会話する、コミュニケーション能力を育成する大事な時間がとれなかったと思われる。
学校関係者の意見	・コロナ禍でありながら、多くの著名な企業からの内定、各大学への合格から、適切な指導だったことがうかがえる。		
次年度へ向けての課題	・個人タブレット利用、ネットやHPの確認で済ませたのか、進路指導室で資料の確認をしていない生徒が、就職者で49人、進学者で61人が進路指導室の利用をしていない。 ・就職では、企業のパンフレット等を調べた生徒の数が少ない(16件)ので、より多くの情報をとらえるように指導する。		・基礎学力の向上に努める。(学期ごとの基礎力診断テスト) ・各種テストや検査結果の情報および生徒情報・企業情報など学年との連携を強化する。 ・早い段階で明確な進路目標を設定することによる意識付け、取り組み、指導を強化する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 高岡工芸高等学校アクションプラン				－4－
重点項目	特別活動			
重点課題	学校行事および部活動の充実			
現 状	・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。また、コロナ禍で各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。			
	・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率(生徒会を含む)は98%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は約34名(内8名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。			
達成目標	・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。また、コロナ禍で各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。			
	・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率(生徒会を含む)は98%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見られ、部活動退部者は約34名(内8名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。			
方 策	・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努めて新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえての活動、および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。 ・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。 ・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。			
達 成 度	満足(A)＋ほぼ満足(B)で評価		部活動変更生徒数 1学期→3学期	
	・運動会 A47.6%+B46.0%=93.6% (令和元年比+1.4%) ・球技大会 A58.5%+B31.9%=90.4% (令和元年比+1%)		・21名退部(8名部活動変更) ※昨年度26名退部(7名変更) ・2・3年生の新規入部 5名	
具体的な取組状況	・各行事の内容は、生徒会執行部が事前アンケートを全生徒に実施し、その結果をもとに感染対策に留意した内容を精選し、計画を作成した。 ・行事後にアンケートを実施し、その結果を次年度へ反映させるようにした。		・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全校では行わず、表彰伝達式を校長室で実施してHPにも掲載。 ・大会日程や入賞者一覧を校内で掲示。 ・職員朝礼で大会成績の報告。	
評 価	A	・運動会の満足度93.6% 令和元年度に比べ、1.4%増加した。前年度、ほとんどの行事が中止となり、ようやく開催でできた行事だった。競技内容を精選し、短時間ではあったものの工夫して取り組むことができたことで満足度が上昇したと思われる。 ・球技大会の満足度90.4% 満足度は増加した。一部の競技会場の混雑緩和のため、女子の種目を2種目のみにした。	A	・全体の部活動加入率は高い。 ・今年度は21名の生徒が退部し、うち8名が新たな部活動に変更した。 ・2年・3年生では新たに入部する生徒が5名おり、文化部で兼部する生徒も見られた。
学校関係者の意見	・生徒の満足度も非常に高く、コロナ禍で様々な制限がある中で、生徒学校ともに素晴らしい対応と取組をしたことがうかがえる。			
次年度へ向けての課題	・各行事の反省点をまとめ、改善点を次年度に反映させる。 ・特活部の職員間の連携を密にし、協力体制を整備する。 ・生徒の意見をできるだけ反映することで、各行事に生徒が主体的に参加し、充実感や成就感が体験できるよう配慮する。		・1年生の入部に関しては各部とも協力し、部活動紹介から入部式までの期間に必ず見学することや、十分な説明を受けてから入部の意思を固めるよう指導し、ミスマッチを事前に防ぐ。 ・退部者の確認とその後の学校生活の充実を図るための面接を充実させる。 ・女子運動部の活性化。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和3年度 高岡工芸高等学校アクションプラン					－5－	
重点項目	PTA活動の活性化					
重点課題	PTA役員会とPTA行事の活性化					
現 状	・PTA役員会では、行事等について積極的な議論が行われている。 ・今年度より、役員会のメンバーを会長、副会長、監査、各委員会副委員長と縮小してより活発な議論の場とする。 ・PTA各行事への参加者は少ない現状である。 ・各委員長、副委員長が中心となり各委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。					
達成目標	PTA行事への参加者数			総会の出席者		
	前年度より10%増			出席率50%		
方 策	・今年度よりホームページにPTAページを開設。 ・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。 ・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。 ・各役員から行事参加への働きかけを積極的に行う。 ・今年度より、新たに各委員会に副委員長が作られ、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。					
達成度	コロナウイルス感染症感染拡大防止のため各事業中止			コロナウイルス感染症感染拡大防止のため総会中止		
具体的な取組状況	今年度のPTA活動で実施された事業 ・教養講座（ハーバリウム制作） ・PTA通信発刊（2回）			総会中止（紙面決議）		
評 価	B	コロナ禍という現状に対応して役員各位により工夫された活動ができた。また、PTA通信も予定通り刊行できた。		—	本年度のPTA総会等中止のため、評価なし	
学校関係者の意見	・学校ホームページ内にPTAページも開設されており、この時世に対応した取組みがなされている。					
次年度へ向けての課題	・コロナの感染状況をはあくしながら、少しずつ実施可能な事業を展開していく。 ・コロナ禍でも可能な事業の検討。 ・総会参加者の増員を促すため、次年度以降、PTA総会を土曜日開催可能か検討を進める。					

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）